

「Z-SQUARE」で好評連載中の「カコモンにTRY!」の特別版として、数ある難関校のなかから中学受験コースの教科担当者が選んだ、差がつく「この1問」をご紹介します。この機会に難関中学の入試問題を体験してみてください。



T.M 国語担当者が選ぶこの1問 慶應義塾中等部 【四】

SDGsと熟語の知識を組み合わせる問題

- 【語群】 1 拳動 2 衛生 3 自他 4 危急 5 故障 6 植樹 7 機関 8 増減 9 再開

地球環境に関わる新しい言葉と熟語の知識を組み合わせよう

今回ご紹介するのは、地球環境に関連して近年よく使われるようになった言葉と、昔から使われてきた四字熟語や二字熟語の知識を組み合わせる問題です。問題文に「私たちの地球を次世代に引きつぐために欠かせない取り組みにかかわるもの」とあることから、SDGs(持続可能な開発目標)を意識した出題であるととらえることができたでしょうか。SDGsは環境問題やその他の課題について、2030年までに達成すべき国際目標であり、中学入試でも関連する問題がしばしば出題されているので、着目しておきたいところです。

差がつく! 学習アドバイス

Z会の教材では、四字熟語や二字熟語など知識事項も繰り返し学習できます。意味を理解したうえで、正しく漢字で書けるように、一つ一つ確実に覚えていきましょう。また、読解問題においては、地球環境などをテーマにした文章も数多く取り上げます。描かれているテーマについて、他人事ではなく自分自身に関する事柄として、しっかり考えるようにしてください。学習の材料は身のまわりにあふれています。日頃からニュースや新聞で見たり聞いたりする言葉に関心をもち、時代の変化を敏感に察して、新しい言葉を身につけていくことが大切です。



竹下 結貴 算数担当者が選ぶこの1問 灘中学校 第1日 7

7 ある国で使われる通貨の単位は「ナダ」です。円・ナダ取引において、円に対するナダの値段は毎日1回変化し、前日より安くなるか高くなるかのどちらかです。ある日1ナダは150円でした。Aさんはその次の日から以下のような方法で円・ナダ取引を始めました。前日よりナダが安くなれば持っている円の半分をナダに替え、前日よりナダが高くなれば持っているナダの半分を円に替えます。Aさんは最初5760円のみを持っており、ナダは持っていませんでした。1ナダは取引1日目は120円でした。前日よりナダが安くなったので、1日目の取引の後Aさんの所持金は2880円と24ナダになりました。1ナダは取引2日目は90円、取引4日目は180円で、4日目の取引の後Aさんの所持金のうち円は5940円でした。このとき、取引3日目の1ナダは最も高い場合で①円、最も安い場合で②円です。ただし、Aさんがしたすべての取引について、1円未満、1ナダ未満の端数は生じませんでした。また、手数料などは考えないものとします。

為替取引を題材にした問題

優先順位をつけて考えよう

2022年は、歴史的な円安が話題となりました。今回紹介する問題は、為替の取引を題材にした問題です。問題文をきちんと読めば知識がなくても理解できますが、通貨の価値が常に変化していることを知っている、状況がイメージしやすかったかもしれません。3日目の1ナダが2日目と4日目に比べて高いか安いかで場合を分けて考えます。ただ、入試では時間が限られているため、効率的に考える必要があります。今回は最も高い場合と最も安い場合を求めればよいので、それを優先的に考えるのがポイントです。

差がつく! 学習アドバイス

問題文から読み取った状況を整理して考える問題は、近年よく見られるようになってきました。このようなタイプの問題は「つるかめ算」などの問題とちがいで、決まった解き方がないので、読み取った情報を表などにうまくまとめる力が求められます。Z会中学受験コース6年生7月号の「総合文章題」では、このような出題に対応できるよう、表に整理して丁寧に考える問題を多く出題しています。



高安 智子 理科担当者が選ぶこの1問 駒場東邦中学校 3 (3)

- (3) ロッキー山脈のカンブリア紀の地層などから産出する化石動物群をバージェス動物群と呼んでいます。カンブリア紀以前の化石には見られない、眼や口、あし、かたい殻やトゲをもつ化石が多く見つかっています。このことから、カンブリア紀について説明した文として適切なものを次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。 ア. 「食べる・食べられる」の関係が成立していた。 イ. 海から陸へ生きものが進出した。 ウ. 太陽の光が地球にとどいていなかった。 エ. カンブリア紀以前に生物はいなかった。

化石の特徴から 当時の状況を考える問題

知識だけでなく 思考力も身につけよう

理科の入試問題では、知識だけでなく思考力を問う問題がよく出題されます。ここでは、カンブリア紀の化石に関する問題を取り上げました。この問題では、問題文にあるカンブリア紀の地層に見られる化石の特徴から、当時の状況を考える力が必要です。問題を解くための情報はすべて問題文で与えられているため、カンブリア紀に関する知識は必要ありません。化石の特徴から当時の生き物のようすを想像し、選択肢の内容と照らし合わせて考えることがポイントです。

差がつく! 学習アドバイス

まずは単元ごとの基礎的な知識を固め、その後多くの問題に触れ、慣れることが大切です。Z会の中学受験コースでは、実験・観察の問題を多く取り入れ、問題文から情報を読み取る練習や、知識を組み合わせる練習を積み、思考力を鍛えます。今回の問題のように、理科の入試では考える力が問われる問題がよく出題されます。初見の問題でも、与えられた条件やグラフを読み取り、もっている知識と組み合わせる考えられるようになることが大切です。情報を整理しながら問題文を読み解く練習をしておくことをおすすめします。



西田 聡美 社会担当者が選ぶこの1問 フェリス女学院中学校 1 f

f 次の表は、日本における紙の種類別の生産量を示しています。表中のア～ウは、本などに用いられる「印刷用紙」、コピー機やプリンターなどで用いられる紙などの「情報用紙」、「段ボール原紙」の生産量のいずれかです。印刷用紙を示しているものを、ア～ウから選びなさい。

Table with 4 columns: 紙の種類, 2000年, 2010年, 2021年. Rows: ア, イ, ウ.

(単位:千トン) 矢野恒太記念会『日本国勢図会 2022/2023』より作成。

紙の種類別生産量の推移についての問題

時事的な内容を統計資料から 読み取ろう

中学入試では、統計資料を用いた問題がよく出題されます。この問題は、3つの紙の種類別の名称から、それぞれの用途や多く使われる場面を考え、生産量とその変化から紙の種類を特定する問題です。注目したいのは2000年～2021年という統計期間です。この約20年間で紙製品をとりまく環境は大きく変わりました。また、2021年は、新型コロナウイルス感染症の流行により、新しい生活様式が広まった時期にあたります。統計データに表れた社会の変化を読み取ることができるかどうかポイントです。

差がつく! 学習アドバイス

社会の変化を反映した統計資料を取り上げました。時事問題は知識として知っておくだけでなく、その出来事の背景や問題点、関係する知識も整理しておくことが必要です。また、統計資料を用いた問題は、数値の最大値・最小値、時系列の変化などに着目し、それがどのようなことを意味しているかを考えて学習することが大切です。資料を見たときに気がついたことを書き出しておくといでしょう。Z会では、統計資料を多く取り上げ、論理的に解答をみちびく力を養っていきます。